

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		川満 芳信	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.50	学部担当科目(作物生理学、熱帯作物学)、大学院担当科目(エネルギー作物学特論、作物学特別演習、熱帯植物生産学特別演習、熱帯植物生産学特別研究)を担当するとともに連合農学研究科の特別セミナーを提供する。 学部卒業予定者7名、大学院修士課程修了予定者4名への進路に関する情報を提供する。また、連大博士過程修了予定者1名の就職を先を国外に指導する。		0.50	講義資料は、様々な工夫を凝らし、内容が理解できるようした。また、毎回学生から講義内容に関する意見や感想をミニテストの形式で聴取し、講義の改善に役立てた。7名の卒業論文を完成させ、1名は大学院進学、1名はJOCV(モザンビーク)、2名は民間企業、1名は県の非常勤職員に内定し、2名は未定である。修士修了4名の内、1名は製糖会社、1名は民間企業、1名はNPO、1名は未定で、完璧とは言えない。
研究	0.40	大学院博士課程に在籍中の5名の研究者の研究論文の学会誌への投稿、採択を目指す。H24年にスタートしたSATREPSプロジェクトは最終年度を迎え、その成果の取り纏めを行う。沖縄型植物工場は、藻の発生を抑える資材の開発を行い、コスト削減を図る。西原町新渡戸ギクPJの推進を図る。		0.40	連大博士課程の3名の投稿論文も受理され、無事、学位を取得した。D2、D1の4名の研究成果も学会発表など順調に進み、国際誌に投稿中の者もいる。SATREPS(JST/JICA)プロジェクトは最終段階に突入り、3月7日の現地シンポジウムで成果を報告し、プロジェクトは終了する。現在、第2ステージをJSTに申請中である。西原町新渡戸ギクPJは「新渡戸ヒージャー」を生産し、ブランド化を図る段階に入った。
社会 貢献	0.09	沖縄県内唯一の農業関連学会、「沖縄農業研究会」の定期総会と一般講演会を琉大で8月12日に実施する。また、雑誌「沖縄農業」の査読化を軌道に乗せ、年間2巻の発行を目指す。JICA集団研修コースのリーダーを勤め上げる。		0.09	沖縄農業研究会、沖縄型植物工場研究会の総会、講演会を成功させた。JICA集団コースには世界各国から12名の参加が有り、無事終了した。
管理 運営	0.01	学部内委員会の委員として勤め上げる。特に、研究者としての本領を發揮できる職場環境を整える必要がある。		0.01	学部の教育委員会委員を勤めた。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		諏訪 竜一.	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のニーズに見合う知識を有することのできる講義を行う</li> <li>・講義分野を学生のみならず、一般公開できるよう取り組む。</li> <li>・農作物を自ら作り、食し、食事に対する理解を深める教育を行う。</li> <li>・理解しやすくなおかつ深みのある講義を行う。・4年次指導教員として適宜対応する。</li> </ul>			0.40	<p>公開授業として登録を行った。また、学生実験や、卒論研究を行う過程で農作物の生産を行い、これに関する教育を行った。成績や進路など適宜対応した。</p>		
研究	0.30	<p>大宜味村圃場で継続中の酸性土壌耕作放棄地の精油および木材採取のための産業植林に向けた研究を継続して推進する。 他組織などと共同で研究を行い、相互のレベルアップに努める これまでにを行った研究に関する論文を投稿する</p>			0.30	<p>大宜味村内で生育中の産業植林により生み出された精油を東京ビックサイトにおいて琉球大学からの出典として展示した。また、現在は大宜味村とカラキ事業、アイアイファームと在来ダイズの生産普及に関する事業などを行っている。また、薬用作物に関する研究論文がhorticulture journalに間もなく受理される予定である。また、数編の論文を間もなく投稿を行う。</p>		
社会 貢献	0.15	<p>地域とともに、沖縄県の産業に貢献する研究を行う。</p>			0.15	<p>5研究活動費を外部から獲得し、いずれも沖縄県の農産業の発展に向けた研究である。また、公的機関からの依頼による講演会を3度行った。</p>		
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科長等の管理職の加重な負担を軽減するため、できることは協力し学科の動きを軽敏にし、研究活動の活発化に努める</li> <li>・分担している各種委員会の活動を行う。</li> </ul>			0.15	<p>各種役割等を協力を行った。</p>		
その他								
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		谷口 真吾	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学部講義は、専門用語の意味の正確な理解とともに、基礎定理・法則を十分に理解させて、専門科目ごとの基本知識として確実に定着させることに重点を置く。講義ごとに毎回配布する講義資料を順次改訂し、最新の情報も盛り込みながら内容の充実を図る。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行う。次回の講義の冒頭で疑問点などには回答する。大学院講義は、院生のサイエンスコミュニケーション能力と考察力を高めることに重点を置いた講義を行う。目標達成のために、具体的な論文データに対する学生と議論を主体とする演習を随時、講義の中に組み込む。さらに、造林学研究室の専攻生に対し、進学指導のためのガイダンスならびに就職支援のための情報提供などを積極的に行う。また、公務員試験、企業採用試験の面接や小論文の練習、エントリーシートの作成など、私の可能な範囲の指導を研究室専攻生等、個々の受験生に対し実施する。さらに、大学院の進学率を高める指導も行う。			0.30	学部講義は、専門用語の意味の正確な理解とともに、基礎定理・法則を十分に理解、定着させることができた。専門科目ごとの基本的な知識については確実に定着させることができた。講義ごとに毎回配布する講義資料を最新の研究成果や技術情報を盛り込み改訂した。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行った。次回の講義の冒頭で疑問点などには回答した。大学院講義は、院生のサイエンスコミュニケーション能力と考察力を高めることに重点を置いた講義に努力した。具体的には、具体的な論文データに対する学生との議論、ディスカスを主体とする演習を講義の1/3の時間、組み込んだ。さらに造林学研究室の専攻生に対し、進学指導のためのガイダンスならびに就職支援のための情報提供などを積極的に行った。今年度も研究室専攻生の進路決定率は100%であった。また、公務員試験、企業採用試験の面接や小論文の練習、エントリーシートの作成など、私の可能な範囲の指導を研究室専攻生等、個々の受験生に対し実施した。さらに、大学院の進学者は卒業予定者3名のうち2名であった。		
研究	0.30	年度内に日本森林学会誌等の中央誌に1編以上の論文投稿、受理・採択を目指す。日本森林学会第128回大会、ならびに九州森林学会大会で研究発表を行う。院生には亜熱帯森林研究発表会での発表を経験させる。科研費採択を目指す。トヨタ財団、住友財団、プロ・ナトゥーラファンド、みずほ財団の研究費申請を行う。			0.30	現在までに日本森林学会誌等の中央誌への論文投稿、受理・採択はできていないが、年度内に、原著論文を1編まとめるように努めている。日本森林学会第128回大会、九州森林学会大会での研究発表を実施した。院生には亜熱帯森林研究発表会での発表を行わせた。科研費採択を目指し、基盤Cと分担で科研Bを申請した。トヨタ財団、住友財団、プロ・ナトゥーラファンド、みずほ財団の研究費申請を行ったが、4申請とも不採択であった。		
社会 貢献	0.10	沖縄の林業のために、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携し、とくに沖縄の林業の中心域である県北部域の現地踏査に立ち会い、問題点および解決課題の抽出を行う。その関係も含めて、県あるいは国主導の外部専門委員会への出席要請には、積極的に応じる。			0.10	沖縄の林業のために、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携した。今年度は定期的に懇談会形式の意見交換会を実施した。沖縄の林業の中心域である県北部域の現地踏査に立ち会った。当該地域の問題点および解決課題の抽出を行った。県あるいは国主導の外部専門委員会への出席養成には、積極的に応じた。		
管理 運営	0.30	学科会議、農学部の各種委員会活動、任命されている全学の委員会活動に積極的に取り組む。			0.30	学科会議、農学部の各種委員会活動、任命されている全学の委員会活動に積極的に取り組んだ。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	井上 章二		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学部においては前学期:森林水文学、森林環境学、外国文献講読Ⅰ、および卒業論文Ⅰなど、後学期:森林土木学、森林工学演習実習、流域・森林保全学、森林科学実習、森林測量学、森林測量学実習、卒業論文Ⅱなど、研究科においては森林環境工学特論、亜熱帯農学特別演習等の授業をシラバスに則って行う。それぞれの科目において、前年度の学生の意見や自らの反省を活かした授業の改善を心掛ける。大学院国際農学プログラムにおいてはスムーズかつ効果的に実施できるようコーディネートを行う。また、連大関連では、3年次社会人学生1名の主指導教員として、学位取得に向けて指導を行う。研究室の院生、学生に対しては週1~2回のゼミを確保し、修士学生1名、卒論学生2名を研究室准教授と協力して指導する。また、研究室の学生に限らずキャリア支援を行い、種々の相談に対応する等、学生支援を積極的に行う。	0.30	学部、研究科すべての授業に対し、共同担当者がいる場合は協力してシラバス通りの実施に努め、昨年度の授業評価の意見を反映させるなど全力投入したが、管理運営にかなりの時間を要し、一部行き届かなかった面もあると思われる(特に後学期)。しかし、休講も最低限であり、及第点であると自己採点できる。大学院国際農学プログラムをかなり充実させただけでなく、学部生の海外派遣(グローバルシチズンプログラム)を試行した。連大学生1名の主指導教員として学位論文を提出させた。研究室ゼミも週最低1回は確保し、研究室在籍学生の卒論を指導した。	
研究	0.15	森林土壌の水循環に及ぼす影響、海岸線の防災・減災機能に関する研究を引き続き行い、その研究成果を国内外のレフリー付き学術誌に投稿し採択を目指す。日本海岸林学会、日本雨水資源化システム学会での研究発表を目指す。	0.10	今年度は、研究に投入できる時間があまり取れず、予定していた論文投稿、学会発表はできなかったが、連大学生との共著論文が日本木材保存協会学術誌に受理された。	
社会貢献	0.15	日本雨水資源化システム学会副会長、日本海岸林学会評議員の責務を引き続き果たす。内閣府沖縄総合事務局開発建設部における入札監視委員会委員として適切な入札が行われるよう尽力するとともに、沖縄県森林緑地課および森林資源研究センターのみならず沖縄県、西原町との連携にも力を入れ、社会貢献に務める。	0.15	雨水資源化システム学会の副会長として、学会運営の責任を果たした。日本海岸林学会の役員としても責務を果たした。また、沖縄総合事務局の入札監視委員会委員長としての職責を果たした。学部の社会貢献委員会に働きかけ、西原町産業まつりに参画した。	
管理運営	0.40	学部長として農学部の円滑な管理・運営に努めるとともに、琉球大学のさらなる発展に向けて尽力する。農学部では、教授会、代議会、将来計画委員会、人事委員会等の議長としての責務を果たし、全学的には、企画経営戦略会議、教育研究評議会等の委員としての責務を果たす。また、健康栄養科学コースの設置の準備を進める。	0.45	学部長就任2年目となり学部運営に全力を投じた。そのため、所属学科の直接的運営にはあまり協力できなかった。学部全体として必ずしも成果が上がっていない部分もあるが、大学の方針から逸脱しないよう学部の方向性を示した。また、来年度からスタートする健康栄養科学コースの立ち上げにあたり、体制を整えた。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 一穂	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	これまでのスライドを用いた授業ではノートの書き取り時間の不足が意見として多く寄せられていたため、授業は板書主体とすることで、この点を改善し、画像などを示す際にのみスライドを用いる形式に改める。実験については、必要な実験を経験した後、学生主体で小研究テーマを立案し、実施するという内容であるが、学生への負担が非常に大きかったことから、本年度は積極的に教員が関わることで負担軽減に努める。卒業研究では計画立案から研究遂行、論文作成まできめ細やかにアドバイスを行い、限られた期間の中でスムーズに研究が進められるよう努める。4年生に対しては、希望の進路に応じて就職や進学に関する情報収集などを行い、進路の決定を支援する。			0.30	授業を板書を主体とすることで、これまで意見として多く寄せられていたノートの書き取り時間の不足を改善した。実験では調査テーマの立案過程に例年よりも積極的に関与したが、依然として時間を多く要したため、来年度はさらなる改善を試みる。卒業研究では野外調査の殆どに同行し、きめ細やかな指導を心掛けた。また、進学や就職に関する相談にも積極的に対応し、担当した3名の4年生のうち、2名が大学院に進学し、1名が一般企業に就職する予定である。		
研究	0.30	引き続き与那フィールドの亜熱帯林とマレーシアの熱帯雨林における物質循環に関する調査を進め、結果がまとまり次第、投稿論文としてまとめる。とくに亜熱帯林における土壌呼吸量に関しては、調査結果がほぼ出揃ったため、解析を進めて本年度中に国際学術誌に投稿することを目指す。科学研究費補助金や民間の研究助成金にも積極的に応募する。			0.30	与那フィールドの亜熱帯林とマレーシアの熱帯雨林での物質循環に関する研究を継続して行った。論文の投稿に関してはデータの整理に時間を要したため今年度中には達成できなかったが、途中経過の内容を3月に行われる日本生態学会大会で発表する予定である。このほか、森林生態系における物質循環の測定方法に関する単著の総説が日本生態学会誌に受理・掲載され、共著論文2本が学術誌に受理・掲載された。また、科学研究費補助金や複数の民間の研究助成金に応募した。		
社会 貢献	0.10	沖縄県等の関係機関と連絡を密にとり、沖縄県の林業および環境政策の推進における諸課題について理解を深め、将来的にそれらの問題点に対して学術的立場からの問題点の抽出や解決策が立案できるよう、問題意識を持って研究に取り組む。			0.10	沖縄県の亜熱帯森林・林業研究会や沖縄県森林管理課との意見交換会に参加し、沖縄県の林業や森林管理に関する諸課題について理解を深めた。		
管理 運営	0.30	教授会や学科会議に積極的に参加し、各種委員の仕事にも積極的に取り組むことで、農学部や亜熱帯農林環境科学科の管理運営に貢献する。また、全学学士教育プログラム委員として、同プログラムの効果的で円滑な実施に向けた取り組みを推進し、全学規模での教育改善に貢献する。			0.30	「全学学士教育プログラム委員会」の委員として同プログラムの効果的で円滑な実施に向けた取り組みを推進するとともに、グローバル研究推進機構の「体系的な教職員研修プログラムの開発および実施に関する検討委員会」の委員として答申の立案に携わった。学部では教育委員会の委員を務め、学科会議では特に全学学士教育プログラムに関する議事提案と取りまとめを担った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		辻 瑞樹	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	学生の授業目標の達成率向上を目指す。指導する大学院生には論文を投稿させ、学会等で発表させる。研究室配属済みの学生には心身面でのケアが必要な学生がいることが既知であるため、とくに注意する。関連職種の実務経験者のセミナーなどを開き、学生と面談させるなどの機会を積極的に与え、就学意欲を高める。			0.25	座学に討論の時間をできる限り多く入れ学生の学修意欲向上を促した。大学院生には旅費を支給し生態学会大会などで発表させ、論文も投稿させた。やはりメンタル面で問題を抱えた学生が複数現れたが、保健センターや保護者と協力し、学生の精神衛生の維持管理につとめた。		
研究	0.30	論文2報以上の国際的著名誌への受理を目指す。採択中の学長リーダーシッププロジェクトと科研費研究を鋭意遂行する。JSPSのその他の競争的資金(拠点形成事業、新学術領域など)への応募または応募準備を進める。			0.25	Mol. Ecol. (IF5.9), Biol. Lett.(2.8), Behav.Ecol. Sociobiol(2.4)に受理。新学術領域公募班に応募した。学長リーダーシッププロジェクト研究も多面的に展開できた。京都大学の公募ワークショップに採択されワークショップを開催した。		
社会 貢献	0.30	日本学術会議に連携会員として各種委員会に出席、各種企画等に参加する。沖縄県自然環境保全審議会等に委員として各種審議に参加する。JSPS, JST等で専門知識に関する情報提供が求められればできる範囲で応える(SSHの委員として指導を担当する等)。各種学協会では継続中の委員(日本学術会議行動生物学分科会委員長、生態学会将来計画委員長, ER誌副編集長)を努める。大学生向け教科書の編集(2シリーズ)を行う。			0.30	日本学術会議連携会員として2度のシンポ(9月東京、1月那覇)を企画・企画協力し司会を勤めた。沖縄県自然環境保全審議委員として各種会議に出席した(9月まで)、SSH委員、各種学協会委員をつとめ会議等に出席した。沖縄県の外来種問題委員としてアドバイスを行った。6冊以上の日本語の教科書・啓蒙書の編者をつとめた。		
管理 運営	0.20	名称が琉球大学博物館に変更された風樹館館長としてとくに同施設の外部広報活動につとめる。農学部各種委員の職責を全うする。全学の研究推進会議委員としての職務を全うする。			0.20	風樹館館長としてとくに同施設の外部広報活動につとめ、本年度は奄美で展覧会を開催した。農学部の国際交流委員、全学の研究推進会議委員としてほぼ全ての会議に出席した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	鬼頭 誠		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学部担当科目(前期: 土壌肥料学実験、外国文献講読、卒業論文Ⅰ、後期: 食料生産と環境、熱帯肥培管理論、環境化学実験、卒業論文Ⅱ)を担当し、学部・学科の理念に基づいた講義を行う。大学院担当科目(植物生理生態学特論、特別演習、特別研究)についても研究科・専攻の理念に基づいた講義を行う。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当する。また、学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時などに進路指導上の情報収集に努める。		0.30	目標に記載した学部担当科目を学部・学科の理念に基づいた講義を行った。大学院担当科目についても目標に記載した科目について研究科・専攻の理念に基づいた講義を行った。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当した。また、学生の希望進路に沿ったインターンシップ先の情報の収集を行った。なお、数年前から学部学生を全国規模の学会に参加させ進学率の向上に努めており、本年度は1名の進学希望者が本学研究科に合格した。		
研究	0.30	学部及び修士学生と共に研究成果を全国規模の学会で2つ以上発表する。研究論文を連大基準のジャーナルに投稿、掲載を目指す。採択された科研費の課題を確実に達成するとともに、別課題の外部資金、学内プロジェクトの獲得に努力する。さらに、学内外の関連研究機関等との連携を目指し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。		0.30	外部資金として科研費の獲得し、学内外の関連研究機関等との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努めた。その他学内外のプロジェクトに応募したが、現段階で採択には至っていない。関連学会において2題の発表を行った。論文の投稿は執筆中の3編の内、1編は年度末までに投稿できるように努める。		
社会 貢献	0.30	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努める。学内外の関連する研究者、研究機関等との連携した研究成果を発信し、沖縄および熱帯・亜熱帯地域の社会貢献に努める。また、県内外の高校等への出前講座、公開授業の実施を積極的に行う。		0.30	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努めた他、他機関の評価者として各種の評価を行った。また、国頭村からの要請を受け土作りのあり方について生産農家を対象とした講演会を行った。		
管理 運営	0.10	学部各委員会委員として学部運営に協力する。また、学科長として学部・学科の運営に努力する。学外の各種委員会委員として責任を持った取り組みを行う。		0.10	学科長として学科・学部の様々な問題に取り組んだ。また、学部各委員会委員として学部運営に協力した。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		立田 晴記	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	卒業論文, 修士論文, 博士論文の研究計画策定のサポートを行い, データ取得から解析まで, 一通りの技術を身につけられるように指導する。学部および大学院向けの講義を行い, 卒業研究を実施するための基礎学力の底上げを図る。また学生がそれぞれ希望の進路に進めるよう, 適宜指導と助言を行う。			0.55	卒業論文5名, 修士3名の作成指導をおこなった。具体的には統計解析法, 実験計画法, また論文の作成法に至るまでのアドバイスをを行い, 適宜参考論文・教科書の紹介を行いながら基礎学力の向上を図った。また大学院講義では統計パッケージRの利用法と統計学に関する指導を行い, 学生自身のデータ解析に役立てるための知識と技能を教授した。		
研究	0.45	実施中の代表科研費(基盤B国内, A,B海外,挑戦的萌芽)および今年度新規取得した共同研究(科研費基盤C)については, 今後の目標設定を的確に定めながら, 成果を挙げていく。また昨年度から継続中の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP:内閣府)についても, フィールド調査を中心に実績を残していく。			0.35	科学研究費補助金(基盤Bx2)の申請課題については, 国内外におけるフィールド調査, また系統解析と集団構造解析を実施した。また内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)については, 野外における害虫の振動応答を記録した。		
社会 貢献	0.05	日本応用動物昆虫学会, 動物行動学会の英文誌編集責任者としての仕事を全うする。また9月に米国・オーランドで開催される国際昆虫学会議では, シンポジウムオーガナイザーの一人として職務を全うする。			0.05	日本応用動物学会, 動物行動学会の英文誌編集責任者として, 投稿論文の精査, 査読, 振り分け等の業務を行った。また国際昆虫学会議ではシンポジウムオーガナイザーとして集会を運営した。		
管理 運営	0.05	各種委員会委員, 学外からの委託委員の職務を全うする。			0.05	教育委員会委員, FD委員会委員長, URGCC大学院担当者として, 当該業務を遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	金城 和俊		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行う。また共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について理解させる。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行う。学生の希望進路に関する相談を常に受け、その都度、情報提供を行い、学生の就職支援を怠らない。また関連企業に学生の就職に関する相談を行う。		0.35	学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験、フィールド実習)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行った。また共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について理解させ、グループ学習も行った。学生の進路相談を受け、適切に対応した。適時、就職に関する情報提供した。また、推薦書を作成し、履歴書や面接の指導などを行った。		
研究	0.35	2016年度日本土壌肥料学会全国大会と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行う。研究成果は約1報を投稿し、年度内の受理採択を目指す。また他分野の研究者と共同研究も積極的に行う。また、外部資金獲得のために、科研費や財団の研究助成への応募を積極的に行う。民間企業との共同研究を行う。		0.35	2017年度日本土壌肥料学会全国大会と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行った。研究成果は約2報を投稿し、現在査読中である。本学の理学部と岐阜大と共同研究を行い、学内研助成と科研費が採択され、水循環の研究とマンガローブの炭素循環の研究を進めることができた。		
社会 貢献	0.10	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事を全うする。		0.20	教員免許状講習会を行った。県立博物館にて文化講座、土壌炭素調査法検討会にて、一般の方と専門家の方々に向けて講演を行った。さらに、3月に沖縄市新規就農者のための農業講習会にて地下水と液肥との関係について講演を行った。他に、土壌改良事業に関する検討委員会、沖縄市経営生産対策推進会議に出席した。日本学校農業クラブ沖縄大会にて審査員として出席した。		
管理 運営	0.10	教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事を全うする。全学と学部の各種委員をつとめる。		0.10	全学の委員会は安全衛生委員、機器選定WGに選任され、それぞれの委員会にて大学の管理運営に務めた。学部委員としては、安全衛生委員、農学部改修WGなどに選任され、それぞれの委員会にて大学の管理運営に務めた。		
進路 指導				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		志茂 守孝	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.70	病気に負けずに、授業「応用土壌学」を最後まで行うこと。また、「熱帯農学総合実習」を分担する。			0.70	日本・沖縄の基盤の移行、土壌の生成、現在の沖縄の土壌統、土壌保全について、Latexで組成し、独自に編集・作成したプリントを配布し、最後の15回まで行うことができた。50枚程度のプリントを毎回授業時間に配布して、テキストを用いず、プリントで授業した。また、熱帯生物圏研究センターで催された「西表の土壌」を午前中に授業し、学生1人1点の西表の土壌試料の「pH」と「EC」の測定を行った。		
研究	0.20	1995年に発表された農耕地土壌分類第3改訂版に、従来の第2次改訂で沖縄県農業試験場が発表した伊平屋島の土壌図を改良する。			0.20	1987年発表された伊平屋島農耕地土壌は13土壌統であった。1土壌統から1土壌統への移行は、8土壌統であった。2土壌統への移行は、3土壌統であった。それ以外の土壌統は、1987年の基本地力の冊子に掲載されていなかった。		
社会貢献	0.00				0.00			
管理運営	0.10	亜熱帯農林環境科学科の学科会議、農学部の教授会に出席する。			0.10	学科会議および教授会へのうち、2/3程度参加できた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		建本 秀樹	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	近年取り組んでいる対話型講義スタイルにより学生の理解力の向上が着実に図られていると、昨年度までの授業評価アンケート等から推察されている。したがって、今年度も対話型講義スタイルに加えて、学生の学習に対する向上心を刺激するよう心掛ける。また、研究室でのゼミでは、学生の研究に対する探究心、ならびに科学英語論文の読解力を鍛え、卒論研究等に生かせるような実践的な教育を研究倫理を踏まえた上で実施する。さらに、研究室に配属されている4年次に対しては大学院への進学も含めて進路指導を積極的に行う。一方、2年次生の年次指導教員として他の年次指導教員と協力して、2年次学生の生活・学習・進路指導を確実に行う。			0.35	対話型講義スタイルの中で、これまで以上に学生に対して問題を提議しながら進めていく講義スタイルを積極的に実施した。その結果、当初は学生達も遠慮がちであったが、次第に学生の方から積極的に返答がなされるようになり、理解力の向上に繋がったと推察される。また、研究室のゼミ活動では、学生の英文読解力向上に重点を置きつつ研究の面白さを伝えた結果、3名の学生の内、2名の学生が大学院修士課程への進学を決め、残り1名の学生は5月の段階で早々に就職先が決定できた。さらに、2年次の年次指導教員として、他の先生方と協力しながら学生の分野配属と研究室配属をスムーズに実施した。		
研究	0.40	昨年度までとは異なり、今年度から研究内容を大きく変更するため、これまでとは全く違ったテーマで今年度からの新たな科研費取得を目指す。そして、新たな研究内容に予想以上に早い成果が得られれば、学術雑誌等へ最低1報以上の研究論文の採択と共に、関連学会もしくは国際学会での1演題以上の学術発表を目指す。さらに、沖縄県と共に平成29年度からの新たな研究事業立ち上げと展開を行うべく尽力する。また、特別外国人研究員制度に応募し、研究を通して国際貢献にも関与したい。一方、関連機関との共同研究を継続し、地域に貢献できる研究成果の達成に努める。			0.40	今年度から研究テーマを大きく変えて科研費の獲得に望んだ結果、基盤研究(C)を獲得できた。現在、この新たな研究テーマから得られた結果を基に論文を作成中である。そして、国際学会で1演題の学術発表も行った。また、現在、短期外国人研究員招集制度に応募しており、研究面から国際貢献にも関与している。一方、来年度以降、沖縄県との共同研究が決まると共に、これまで培ってきた研究技術で地域に貢献すべく養豚業者との来年度に向けた研究協力体制も構築できた。		
社会 貢献	0.10	沖縄県が主催している「沖縄県アグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し、今後の沖縄県養豚産業の活性化を図る。また、関連企業や県内高校からの問い合わせ等に積極的に応じ、要望があれば出前講座等を実施したい。さらに、「アグー保存会」との連携をさらに深め、純粋系アグーの系統保護に学術的ならびに技術的な両面から貢献する。なお、3年前から継続している日本養豚学会評議委員の任を果たす。			0.10	沖縄県の「おきなわアグーブランド豚推進協議会」に学術委員として参加した。また、沖縄県立北部農林高等学校が中心となっている「アグー保存会」との事業展開の一環として、純粋系アグーの維持・管理の指導、ならびにブランド豚チャーグーの生産に研究協力を行った。		
管理 運営	0.10	学部の各種委員会(匿名を要するため具体的委員会名の記載は避ける)、さらには全学の危機管理委員等の各種委員会活動に積極的に参加すると共に、学科会議や教授会等の会議への出席率を80%以上にする。そして、学科や学部の運営に貢献する。			0.15	昨年度に引き続き今年度も、学科会議、学部教授会および研究科委員会に95%以上の割合で出席し、担当した各種委員会では積極的に発言を行った。また、入試委員会では大学院入試の改革等を積極的に行い十分に責務を果たせたと思う。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		関根 健太郎	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	植物病理学実験では、実験方法の把握だけでなく、卒業論文研究に適用可能な「実験結果の考察」に重点をおいて考えさせる課題を課し、その習慣化を図る。担当講義(植物ウイルス学、熱帯植物病理学)では、当該研究分野の社会需要(防疫事業など)を紹介し、学習の明確な目的を持ち、興味と理解を高める。植物病理学研究室の学生に対して、植物病理学に関する分子生物学実験を通して、情報収集、計画性、論理的思考の能力開発を促す。2年次指導教員として、コース選択だけでなく、将来の進路について、深く考えるよう促す。研究室の学生に留まらず、学生が多様な進路の選択肢を考えられるように関連研究者などとの交流の場を設けるなど積極的に行う。社会人との交流を増やすことでコミュニケーション能力を養うサポートをする。		0.45	植物病理学実験では、「実験結果の考察」に重点をおいて考えさせる課題を課し、その習慣化を図った。担当講義(植物ウイルス学、熱帯植物病理学)では、社会需要(防疫事業など)を紹介し、明確な目的を持ち、興味と理解を高めた。研究室の学生に対して、分子生物学実験を通して、情報収集、計画性、論理的思考の能力開発を促した。平成28年度COC+地域実践教育推進取組『正課外地域実践教育プロジェクト』に採択され、沖縄県病害虫防除技術センターの発生予察調査活動に参加するなど、農業振興に寄与する人材育成を目指した教育効果を高めた。2年次指導教員として、コース選択だけでなく、将来の進路について、深く考えるよう促した。研究室の学生に留まらず、学生が多様な進路の選択肢を考えられるように関連研究者などとの交流の場を設けるなど積極的に行った。社会人との交流を増やすことでコミュニケーション能力を養うサポートができた。
研究	0.35	地域作物の病害防除を目指した研究の基盤を構築する。関連する研究内容について論文を投稿し受理を目指す。関連学会(植物病理学会、園芸学会)で発表を行う。農林水産省の事業が最終年度であるため、新たな外部資金の獲得を目指す。		0.25	本年度は農林水産省の事業を合計4件、科研費1件、民間企業(株式会社リバナス)の研究費1件、学内研究費(産学官金スタートアップ)が採択となり、これらに取り組んだ。植物ウイルス研究の論文3報が国際誌に掲載され、学会発表(園芸学会、植物学会)をした。学内の時空間ゲノミクスプロジェクトの支援のもと、バイオインフォマティクス技術の習得に努めた。
社会 貢献	0.15	国や県の試験研究機関の研究員に対して技術指導、研修会、講演会を通して、技術の普及に努め、地域農業の病害防除に資する。		0.25	国や県の試験研究機関の研究員に対して技術指導(沖縄県職員への実験指導)、研修会(神戸植物防疫所、病害虫防除センター、沖縄県作物保護検討会)、講演会(静岡大学、アグリ技術シーズセミナーin沖縄、アグリビジネス創出フェア2016)を通して、技術の普及に努めた。病害防除に関するワークショップ1回、シンポジウム2回を琉球大学において開催した。
管理 運営	0.10	図書運営委員会、エコアクション21ユニット実施責任者		0.05	図書運営委員会、エコアクション21ユニット実施責任者に従事した。
	0.00			0.00	
計	1.00			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	